# エコアクション２１
# 環境経営レポート

活動期間　2022 年 4 月～2023 年 3 月

**株式会社　アイクリーン**

***http://www.ai-clean.co.jp***

*2023 年 7 月 1 日作成*



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう
間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 目次

（頁）

1.　会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３～７

2.　対象範囲・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

3.　環境経営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９

4.　環境経営目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

5.　環境経営活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１

6.　環境経営目標の実績・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

7.　環境経営計画の取組結果とその評価、
　　次年度の取組内容・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

8.　環境関連法規等の遵守状況の確認及び
　　評価の結果並びに違反、訴訟等の有無・・・・・１４～１７

9.　代表者による全体評価と見直し・指示・・・・・１８～１９

10.　次年度の環境経営目標について・・・・・・・・・２０



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう
間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 1．会社概要

■会社名　株式会社アイクリーン

■代表者　関　雅年

■住所　本社・工場　静岡県富士市大野 30 番地の 2

倉庫・破砕施設　静岡県富士市大野 32 番地

■連絡先　電話　0545-32-0070

FAX　0545-32-0075

■資本金　1,000 万円

■設立年月日　平成 18 年 9 月 15 日

■環境管理責任者　工場長　関　雅年

■事業の内容　産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の処分業

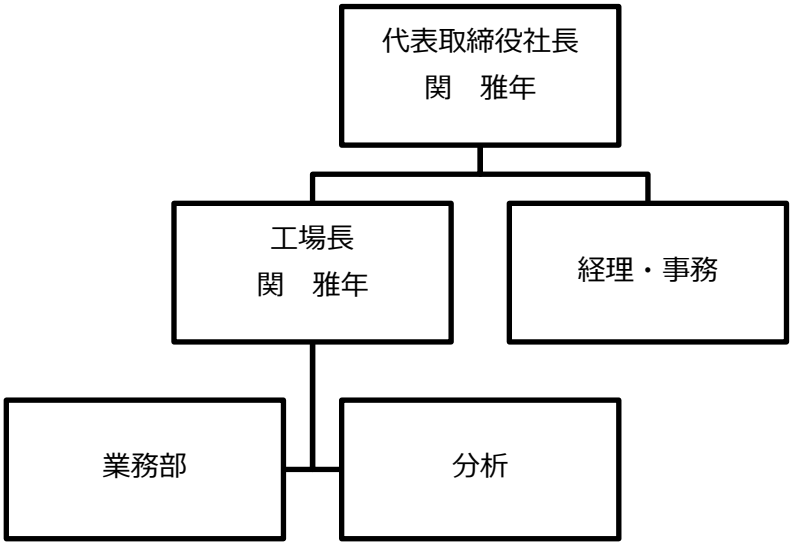
■事業規模

| 活動規模 | 単位 | 2017 年度 | 2018 年度 | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 処分量 | t | 21,517.6 | 23,601.2 | 24,393.6 | 25,896.7 | 18,370.4 | 17,787.5 |
| 売上高 | 百万円 | 258.9 | 318.7 | 346.1 | 397.7 | 363.5 | 361.0 |
| 従業員 | 人 | 6 | 6 | 6 | 5 | 5 | 5 |
| 敷地面積 | ㎡ | 6252 | 6252 | 6252 | 6252 | 6252 | 6252 |

■会社組織図

※認証範囲

全組織・全活動






ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

## ○産業廃棄物処分業許可

許可番号　第 02222143879 号

許可品目　汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、金属くず

初回許可の年月日　平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日　令和 5 年 11 月 28 日

| | 処分方法 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|---|
| 事業の範囲（中間処分） | 脱水処分 | 汚泥 | 120 ㎥/8 時間（※1） |
| | 油水分離処分 | 廃油 | 20 ㎥/8 時間 |
| | 中和処分 | 廃酸 | 合計 120 ㎥/8 時間（※2） |
| | | 廃アルカリ | |
| | 中和酸化還元凝集沈殿処分 | 廃酸 | |
| | | 廃アルカリ | |
| | | 汚泥 | |
| | 破砕処分 | 廃プラスチック類 | 1.28t /8 時間 |
| | | ガラスくず･コンクリートくず及び陶磁器くず | 2.90t/8 時間 |
| | | 金属くず | 4.04t/8 時間 |

## ○特別管理産業廃棄物処分業許可

許可番号　第 02271143879 号

許可品目　腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ、特定有害汚泥、特定有害廃酸、特定有害廃アルカリ

初回許可の年月日　平成 20 年 8 月 29 日

許可の有効年月日　令和 5 年 11 月 28 日

| | 処分方法 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|---|
| 事業の範囲（中間処分） | 中和処分 | 腐食性廃酸 | 合計 120 ㎥/8 時間（※3） |
| | | 腐食性廃アルカリ | |
| | 中和酸化還元凝集沈殿処分（※4） | 特定有害汚泥 | |
| | | 特定有害廃酸 | |
| | | 特定有害廃アルカリ | |

許可処理数量は※1、※2、※3 を合計して 120 ㎥/8 時間

※4　有害物の許可品目は合計 7 品目で下記の通り

水銀又はその化合物、カドミウム又はその化合物、鉛又はその化合物、

六価クロム化合物、砒素又はその化合物、シアン化合物、セレン又はその化合物



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

## ■産業廃棄物処理施設

**○中和施設、中和・還元・凝集沈殿施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 30 番 1　　設置許可番号：第 030111167 号

設置許可年月日：平成 19 年 8 月 28 日　　設置年月日：平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 中和施設 | 廃酸 | 合計 120 ㎥/8 時間 |
| | 廃アルカリ | |
| 中和・還元・凝集沈殿施設 | 廃酸 | |
| | 廃アルカリ | |
| | 汚泥 | |

**○脱水施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 30 番 1　　設置許可番号：第 030110143 号

設置許可年月日：平成 19 年 8 月 28 日　　設置年月日：平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 脱水施設 | 汚泥 | 60 ㎥/8 時間 |

**○脱水施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 30 番 1　　設置許可番号：第 030110227 号

設置許可年月日：平成 28 年 2 月 2 日　　設置年月日：平成 29 年 3 月 27 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 脱水施設 | 汚泥 | 60 ㎥/8 時間 |

**○油水分離施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 30 番 1　　設置許可番号：第 030110142 号

設置許可年月日：平成 19 年 8 月 28 日　　設置年月日：平成 20 年 8 月 29 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 油水分離施設 | 廃油 | 20 ㎥/8 時間 |

**○破砕施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 32 番　　設置許可番号：―

設置許可年月日：―　　設置年月日：平成 31 年 4 月 5 日

| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 破砕施設 | 廃プラスチック類 | 1.28t/8 時間 |
| | ｶﾞﾗｽ･ｺﾝｸﾘｰﾄくず及び陶磁器くず | 2.90t/8 時間 |
| | 金属くず | 4.04t/8 時間 |

## ■特別管理産業廃棄物処理施設

**○中和施設、中和酸化還元凝集沈殿施設**

設置の場所：静岡県富士市大野字大野北 30 番 1　　設置許可番号：第 030111167 号

設置許可年月日：平成 21 年 7 月 21 日　　設置年月日：平成 20 年 8 月 29 日

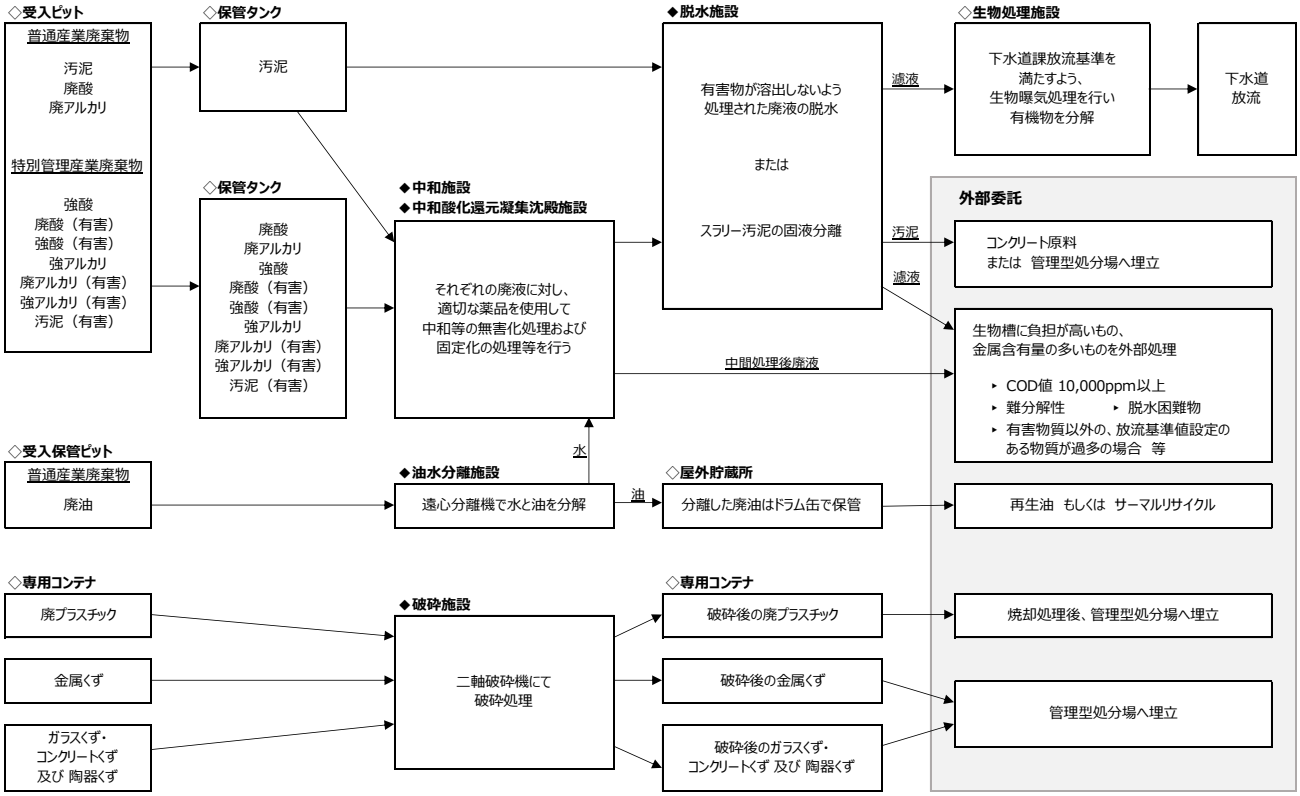
| 施設の種類 | 処分品目 | 処理能力 |
|---|---|---|
| 中和施設 | 腐食性廃酸 | 合計 120 ㎥/8 時間 |
| | 腐食性廃アルカリ | |
| 中和酸化還元凝集沈殿施設 | 特定有害廃酸 | |
| | 特定有害廃アルカリ | |
| | 特定有害汚泥 | |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

■処理工程図

**㈱アイクリーン　廃棄物処理フロー図**




**廃棄物のサンプルを分析、見積、契約**

**①　計量後、廃棄物の品目別に受入ピットにて確認し、荷卸しして移送**

**②　廃棄物の品目別に廃棄物貯槽にて保管**

**③　中和凝集槽にて薬注処理、簡易テストを行う**

**④　処理後の廃棄物を汚泥槽に移送**

**※一部処理後廃液を外部委託**

**⑤　脱水処理**

**※汚泥は外部搬出（リサイクル及び埋立処分）**

**⑥　脱水ろ液は生物処理の工程へ移送**

**※一部処理後廃液を外部委託**

**⑦　生物処理工程を経て公共下水道へ放流**



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう
間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

■処理実績

| | | 単位 | 2018 年度 | 2019 年度 | 2020 年度 | 2021 年度 | 2022 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 産業廃棄物の処理量 | 収集運搬量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 中間処理量 | t | 23,601.2 | 24,393.6 | 25,896.7 | 18,370.4 | 17,787.5 |
| | うち再資源化等量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 最終処分量 | t | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 中間処理後の産廃の処分量 | t | 2,141.1 | 1,780.1 | 1,973.3 | 1,986.0 | 1,981.2 |
| | うち再資源化等量 | t | 419.1 | 675.4 | 1,072.0 | 1,085.9 | 1,006.7 |

■処理料金

別途個別見積によりますので、お気軽に当社までご連絡下さい。

処分費用及び収集運搬費の見積は全て無料です。



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう
間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 2．対象範囲

1. 対象組織は株式会社アイクリーンとし、代表者、社員（アルバイト等含む）とする。
2. 対象活動は主に液体の特別管理産業廃棄物及び産業廃棄物の処分業とし、各部門の対象活動範囲は具体的に下記の通りとする。
   - 処理部門

     敷地内で行われる廃棄物の受入、保管、移送、薬注処理、脱水処理、生物処理及び下水道放流、特殊車両の使用、廃棄物の外部搬出とする。容器処分を含む。
   - 分析部門

     廃棄物分析業務、廃棄物の処理試験、分析機器、使用薬品の管理業務とする。
   - 事務部門

     経理業務、購買業務、廃棄物の管理業務、社用車の使用とする。
3. 対象範囲は会社敷地内及び場外に排出される放流水、中間処理後の産業廃棄物とする。



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

## ３．環境経営方針

# 環　境　経　営　方　針

## 私たちは、水をきれいにします。

## 『有りと有らゆる知恵を絞って』

1、処理工程で出る汚泥の埋立率を削減し、リサイクル率の向上に取り組みます。

1、社内における電気使用量の削減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努めます。

1、社内に於ける上水道使用の削減に取り組みます。

1、常に水処理技術の向上と共に薬品使用量の削減を目指し、お客様に安全・安心な情報提供に努めます。

1、地球環境の保全・修復を目的とする活動に積極的に参加します。

1、社内においてペーパーレス化等について検討し、廃棄物の削減を実施します。

1、限りある資源を有効利用する為に、グリーン購入を推進し、物質の循環型社会の構築に貢献します。

1、各関連法規及び、その他の要求事項を遵守します。

1、環境経営の継続的改善を計ります。

上記の実現可能な範囲内において、達成すべき目的・目標を掲げ、実行するとともに、見直しを行い継続的改善・改良に努めます。
この環境方針を維持・実行する為に、全社員に周知するとともに、ホームページを通じ社外にもお約束致します。

令和　4年　7月　1日　制定

株式会社　アイクリーン

代表取締役社長　関　雅年



ふじのくに森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 4．環境経営目標

## ■4.1 環境経営目標

| 項目 | 基準期間（実績値）<br>（2021 年度） | 目標 | 目標値<br>（2022 年度） | 主管部門 |
|---|---|---|---|---|
| **二酸化炭素の排出量削減<br>（電気使用量の削減）** | 電気使用量 575,428.0kwh<br>二酸化炭素排出量<br>253,763.75kg-$CO_2$<br>廃棄物総処分量 18,370.36t<br>排出割合 **13.81kg-$CO_2$/t** | 二酸化炭素排出割合を<br>前年以下 | **排出割合<br>13.00kg-$CO_2$/t 以下** | 処理部門<br>分析部門<br>事務部門 |
| **廃棄物排出量の削減<br>（汚泥のリサイクル率アップ）** | 汚泥のリサイクル率 **54.6%** | 前年の<br>リサイクル率以上 | **リサイクル率<br>54.0%以上を維持** | 処理部門 |
| **廃棄物排出量の削減<br>（コピー用紙の再利用）** | コピー用紙の使用<br>25,000 枚（100kg）<br>回収 75kg<br>回収率 **75.0%** | 回収率<br>75%以上を維持 | **回収率<br>75.0%以上** | 事務部門 |
| **化学物質の適正使用<br>（化学物質使用の効率化）** | 化学物質使用量/中間処理量<br>**22.38 ㎏/t** | 前年度より<br>効率化を図る | **処理コスト比<br>22.38kg/t 以下** | 処理部門 |
| **上水の使用量削減** | 上水使用量 **432.0 ㎥** | 前年度より<br>効率化を図る | **上水使用量<br>432.0 ㎥以下** | 処理部門<br>分析部門<br>事務部門 |
| **グリーン購入の推進** | グリーン購入割合 **80%** | 80%以上を維持 | **購入割合 80%以上** | 事務部門 |

※総排水量に関しては廃棄物の搬入量と搬入物の処理難易度によって地下水使用量、薬剤使用量が変化し、下水道放流量が大幅に変動するため把握が困難なので目標としては設定しないが、代替として上水使用量の削減を目標とする。

※二酸化炭素の排出量の算出には東京電力の排出係数の 0.441 ㎏-$CO_2$/kwh を使用。

## ■4.2 環境経営目標（年次、長期目標）

| 項目 | 基準年<br>（2021 年度） | 年度目標<br>（2022 度） | 長期目標<br>（2023 年度まで） | 主管部門 |
|---|---|---|---|---|
| **二酸化炭素の排出量削減<br>（電気使用量の削減）** | 廃棄物処分量 1t 当たりの<br>二酸化炭素排出量<br>**13.81kg-$CO_2$/t** | 排出割合<br>**13.00kg/t 以下** | 二酸化炭素排出量<br>**12.00kg-$CO_2$/t<br>以下を維持** | 処理部門<br>分析部門<br>事務部門 |
| **廃棄物排出量の削減<br>（汚泥のリサイクル率アップ）** | 汚泥の総排出量 1,986.0t<br>内リサイクル量 1,085.85t<br>リサイクル率 **54.6%** | リサイクル率<br>**54.0%以上を維持** | リサイクル率<br>**30.0%以上** | 処理部門 |
| **廃棄物排出量の削減<br>（コピー用紙の再利用）** | コピー用紙の購入枚数<br>25,000 枚（100kg）<br>**回収 75.0%** | 回収率<br>**75.0%以上** | 回収率<br>**75.0%以上を確保** | 事務部門 |
| **化学物質の適正使用<br>（化学物質使用の効率化）** | 化学物質使用量/中間処理量<br>**22.83 ㎏/t** | 処理コスト比<br>**22.38kg/t 以下** | 処理効率<br>**15.0 ㎏/t 以下** | 処理部門 |
| **上水の使用量削減** | 上水使用量 **432.0 ㎥** | 上水使用量<br>**432.0 ㎥以下** | 上水使用量<br>**700 ㎥以下** | 処理部門<br>分析部門<br>事務部門 |
| **グリーン購入の推進** | グリーン購入割合 **80%** | 購入割合 **80%以上** | 購入割合 **80%以上** | 事務部門 |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 5．環境経営計画

## ■環境経営計画

| 項目 | 環境活動 | 取組内容 | 主管部門 |
|---|---|---|---|
| 二酸化炭素の排出量削減 | ブロアポンプ（消費電力 69kw）のインバーター制御の最適化 | 工場内でもっとも消費電力の大きいブロアポンプのインバーターの生物槽の流量、負荷による制御のこまめな調整を行い、消費電力を削減する。 | 処理部門 |
| | 使用していない機器の電源 OFF | こまめに電源を OFF にし、待機電力を削減する。 | 分析部門 |
| | | 終業時の点検等を確実にし、電源の切り忘れを防止する。 | |
| | ICP（消費電力 8kw）稼働時間の効率化 | ICP での測定を一度にまとめて行うなど、測定の短縮を図ることにより消費電力が大きい ICP の使用電気の削減をする。 | |
| | | サンプル数による ICP の稼働時間の効率を考慮し稼働。 | |
| | 昼休みの照明 OFF | 照明スイッチ付近に昼休みの電源 OFF の表示を行い、昼食後に消灯するように努める。 | 事務部門 |
| | エアコン消費電力の削減 | リモコン付近に啓発掲示を行い、夏季（7 月～9 月）は設定温度 26℃、冬季（12 月～2 月）は設定温度 22℃とする。 | |
| 廃棄物の排出量削減 | 汚泥のリサイクル率アップ | 脱水機ろ布の洗浄をこまめに行い、含水率を下げる。 | 処理部門 |
| | | 取引業者の新規契約を進め、リサイクル向け排出量の拡大に努める。 | |
| | コピー用紙の再利用 | 購入、使用した枚数を把握し、リサイクル率の把握を行う。 | 事務部門 |
| | | 今まで紙媒体で配布及び保管していた書類を PDF 化し、紙保管を行う書類を極力減らしていく | |
| | | FAX を複合機内に保管し、プリントアウトするものを選択、必要ないものはそのままデータ保管、もしくは破棄できるようにする | |
| 化学物質の適正使用 | 化学物質使用の効率化 | 処理方法の効率化を上げるため、廃液同士の混合処理等の工夫を行う。 | 処理部門 |
| | | 営業、事務と連携し、廃棄物全体のバランスを考慮して契約、搬入を進めていく。 | |
| | | 新たな薬品、安価なリサイクル品等の検討を進め、処理にかかるコストの削減をする。 | |
| 上水の使用量削減 | 工場内の節水運動 | 使用頻度が高い水栓に節水を求める掲示をし、啓発運動を行う。上水道から井水への設備切り替え | 処理部門 |
| | | 機器、容器の洗浄などの節水に努める。 | |
| | 分析室内の節水運動 | 節水コマを導入し、上水使用量を削減する。 | 分析部門 |
| | | 蒸留装置、冷却装置の冷却水をため、ガラス器具の洗浄水等に使用する | |
| | 水道配管の漏洩点検 | 月に 1 回未使用時に水道メーターが回っていないかチェックする。 | 事務部門 |
| グリーン購入 | グリーン購入の推進 | 事務用品の新規に購入するものに関してはカタログ等のグリーン商品リスト掲載品から積極的にリストアップする | 事務部門 |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 6．環境経営目標の実績

## ■環境経営活動実績と結果

| 項目 | 基準期間<br>（2021 年度） | 目標値<br>（2022 年度） | 実績<br>（2022 年度） | 評価 |
|---|---|---|---|---|
| **二酸化炭素の排出量削減<br>（電気使用量の削減）** | 電気使用量 575,428.0kwh<br>二酸化炭素排出量<br>253,763.75kg-$CO_2$<br>処分量 18,370.36t<br>排出割合 **13.81kg-$CO_2$/t** | 排出割合<br>**13.00kg/t 以下** | 電気使用量　549,939.0kwh<br>二酸化炭素排出量<br>242,523.10kg-$CO_2$<br>処分量　17,787.50 t<br>排出割合　**13.63kg-$CO_2$/t** | × |
| **廃棄物排出量の削減<br>（汚泥のリサイクル率アップ）** | 汚泥の総排出量　1,986.0t<br>内、リサイクル量　1,085.85t<br>リサイクル率　54.6% | リサイクル率<br>**54.0%以上を維持** | 汚泥の総排出量　1,496.54 t<br>内、リサイクル量　613.03 t<br>リサイクル率　**40.9%** | △ |
| **廃棄物排出量の削減<br>（コピー用紙の再利用）** | コピー用紙の使用<br>25,000 枚（100kg）<br>回収 75kg<br>回収率 **75.0%** | 回収率<br>**75.0%以上** | コピー用紙の使用<br>25,500 枚（102kg）<br>回収　80kg<br>回収率　**78.4%** | ○ |
| **化学物質の適正使用<br>（化学物質使用の効率化）** | 化学物質使用量／処分量<br>**22.83 kg/t** | 処理コスト比<br>**22.38kg/t 以下** | 化学物質使用量　351,395.04kg<br>処分量　18,370.36 t<br>処理コスト比　**19.13kg/ t** | ○ |
| **上水の使用量削減** | 上水使用量　**432.0 ㎥** | **432.0 ㎥以下** | 上水使用量　**467.0 ㎥** | △ |
| **グリーン購入の推進** | グリーン購入割合 **80%** | 購入割合 **80%以上** | グリーン購入割合　**82%** | ○ |

※活動の結果は目標達成○、業務上のやむを得ない理由等で未達成△、目標未達成×で表す。

※二酸化炭素排出量の算出には東京電力の排出係数の 0.441kg-$CO_2$/kwh を使用。

※二酸化炭素排出量の総量は、264,513 kg-CO2 である（環境への負荷の自己チェック表より）。

　エネルギー使用量のうち電気使用量が 95%以上を占めるため、電気使用量の二酸化炭素排出量を削減目標として設定している。

※化学物質使用量は環境への負荷の自己チェック表 8 の代表的な物質の含有量（硫酸バンドについては購入量比の含有量）から算出。

## ■評価

| | | | |
|---|---|---|---|
| **二酸化炭素の排出量削減<br>（電気使用量の削減）** | 評価<br>× | 原因 | 廃液の臭気対策のため、前年に設置した排気装置（スクラバー）の使用が増加した。 |
| | | 是正 | 前年度割合よりは下回っており、排気装置の使用時間の適正化については取り組めている。次年度はさらに適正化を求め、前年を下回るよう継続的に活動する。 |
| **廃棄物排出量の削減<br>（汚泥のリサイクル率アップ）** | 評価<br>△ | 原因 | リサイクル可能な二次委託先の減少。 |
| | | 是正 | 新規処理先を開拓する。また、搬出時の問題となり得る脱水汚泥の臭気軽減に努める。 |
| **上水の使用量削減** | 評価<br>△ | 原因 | スクラバー装置内の排液交換回数の増加。また、同敷地内に親会社の車両が常駐しており、従業員数と配置車両数の増加に伴い洗車回数が増加した。 |
| | | 是正 | スクラバー装置の適正利用に努める。車両内に残った廃液等の問題がない場合は、井水利用可能な洗車場所での洗車を呼びかける。 |

## ■次年度の環境経営項目…変更なし



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# 7．環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

| 項目 | 環境活動 | 主管部門 | 取組結果 | 評価 | 次年度の取組内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 二酸化炭素の排出量削減 | ブロアポンプ（消費電力 69kw）のインバーター制御の最適化 | 処理部門 | 日常業務の中で最適なエアー量供給が実施出来るよう毎日溶存酸素の測定を行い、こまめに出力調整を行った。 | ○ | |
| | 場内照明 LED 化 | 処理部門 | 2022 年度は LED 化の実施はなし。 | ○ | 脱水機付近の取替を予定。その他随時必要箇所を検討する。 |
| | 使用していない機器の電源 OFF | 分析部門 | 掲示物による啓発掲示を行い、活動した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 電源の切り忘れ防止のため終業時確認。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 常時使用の機器以外は電源を切り、消費電力の大きいものは一度にまとめて使用するように心掛けた。 | ○ | 活動継続 |
| | ICP（消費 8kw）稼働時間の効率化 | | 急を要するもの以外の分析は必要に応じて週一回まとめて測定を行った。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 本社にて分析時に付帯測定、パックテストの拡充実施。 | ○ | 活動継続 |
| | 照明の OFF | | 分析室内が無人になる時は照明を消灯。 | ○ | 活動継続 |
| | 昼休みの照明 OFF | 事務部門 | 啓発掲示を行い、昼食後の照明を可能な限り消灯。 | ○ | 活動継続 |
| | エアコン消費電力削減 | | 啓発掲示を行い、設定温度が徹底されていた。 | ○ | 活動継続 |
| 廃棄物の排出量削減 | 汚泥のリサイクル率アップ | 処理部門 | 脱水機のろ布の洗浄を維持管理の規定以上に行い、含水率の低下と作業効率向上に努めた。 | ○ | 活動継続 |
| | | | リサイクル可能な搬出先が減少したため、搬出可能なリサイクル先へ積極的に搬出作業を行った。 | ○ | 活動継続 |
| | コピー用紙の再利用 | 事務部門 | 購入、使用したコピー用紙の記録を集計した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | リサイクル専用 BOX を設置し、回収量の記録をした。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 裏紙専用 BOX を設置し、積極的に活用した。 | ○ | 活動継続 |
| | ペーパーレス化の推進 | | 紙媒体からデータでの保管に積極的に切替え、周知した。 | ○ | 活動継続 |
| 化学物質の適正使用 | 化学物質の使用の効率化（処理コスト比の向上） | 処理部門 | 廃液の混合処理について、分析担当と現場担当間で効率的な処分方法の検討を行い効率化に努めた。 | ○ | 分析との連携を取って効率化を継続する。 |
| | | | 営業、事務と連携して現状把握と今後の対策について会議を行った。 | ○ | 契約物件の精査と会議を通じて情報の共有化を継続する。 |
| | | | 納入薬品のロット増加の継続、搬入廃液の薬品代替としての利用等、費用の削減及び輸送コストを削減した。 | ○ | 薬品購入先の選定は常に情報集収集しながら最適化を図る。 |
| 上水の使用量削減 | 工場内の節水運動 | 処理部門 | 上水の水栓に啓発掲示を行った。 | ○ | 掲示を継続 |
| | | | 上水道から井水への切り替え。 | ○ | 使用する水栓の切り替え |
| | | | 機器、容器の洗浄の際に手早く作業を進めた。 | ○ | 活動継続 |
| | 分析室内の節水運動 | 分析部門 | 節水コマを導入し、使用量を削減した。 | ○ | 活動継続 |
| | | | 溜め水をガラス器具の洗浄に利用した。 | ○ | 活動継続 |
| | 水道配管の漏洩点検 | 事務部門 | 月に 1 度、未使用時の水道メーターのチェックを行い、漏洩有無の点検を行った。 | ○ | 活動継続 |
| グリーン購入推進 | グリーン購入比率の増加 | 事務部門 | カタログ等でのグリーン商品を積極的に選択し、グリーン購入比率を高める。 | ○ | 必要性を熟考した上で購入時にはグリーン購入を優先する。 |



ふじのくに森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# ８．環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

調査期間中の、環境関連法規の違反はありません。

また、近隣企業、住民等からのクレーム、訴訟はありませんでした。　　調査日　2023 年 7 月 1 日

| 関連法規の名称 | チェック項目 | | 調査結果 | 判定 |
|---|---|---|---|---|
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | ① | 産業廃棄物処分業の許可有効期限 | 許可有効期限は<br>令和 5 年（2023 年）11 月 28 日まで。<br>今年度（2023 年度）、許可更新を行う。 | ○ |
| | ② | 特別管理産業廃棄物処分業の許可有効期限 | | ○ |
| | ③ | 産業廃棄物処理施設の変更の有無（許可、届出の必要） | 2023 年度に脱水施設の入れ替えを行うため、設置変更許可申請の準備を進めている。 | ○ |
| | ④ | 許可に必要な資格 | 中間処理施設技術管理者 | ○ |
| | ⑤ | 産業廃棄物の保管に係る事項 | 保管掲示板を確認、保管容量は法律の上限を超える数量（許可処理数量の 14 倍）のタンク設置なし。 | ○ |
| | ⑥ | 産業廃棄物管理票（C 票）、契約書の保管状況及び帳簿の管理状況 | 産業廃棄物管理票に関しては全て保管、契約書は事務所内に顧客ごとにファイルして保管。<br>帳簿は PC 内に全て保管、管理。 | ○ |
| | ⑦ | 施設の維持管理記録の内容 | 法に規定されている維持管理は月に一回実施、その他設備の点検も日常点検で実施。 | ○ |
| | ⑧ | 法改正に伴う変更の有無 | 水銀等の廃棄物に関する委託契約書への記載を実施。 | ○ |
| | ⑨ | 排出する汚泥に関して特別管理産業廃棄物の判定基準以下であることの確認 | 排出される汚泥は年に一度試験成績書を取得し関係各所に提出、2022 年度の結果は問題なし。<br>※基準値、試験の結果は下表参照 | ○ |
| | ⑩ | 産業廃棄物処理実績報告書及び産業廃棄物処分状況報告書の提出状況 | 2022 年度分は全て 6 月末日までに提出済み。 | ○ |
| | ⑪ | マニフェストの法律で定められた期間内の返却 | 弊社処分のマニフェストは PC 内で管理され、紐付けされた段階で入力。期間外ではエラー通知がなされるようになっており、2022 年度は問題がなかった | ○ |
| | ⑫ | 水銀を含む特別管理産業廃棄物 | 現在社内の規定として水銀含有の場合受入不可としている。委託契約書への通知義務についての記載実施。 | ○ |
| （排出事業者として） | ⑬ | 弊社から排出される産業廃棄物等の保管場所掲示板 | 各廃棄物置き場に掲示している。 | ○ |
| | ⑭ | 産業廃棄物管理票交付等状況報告書 | 2022 年度分は 6 月末日までに提出済み。 | ○ |
| | ⑮ | 搬出先との契約書締結 | 搬出先とは契約締結済み。2022 年度新規契約はなし。 | ○ |
| | ⑯ | マニフェストの発行、保管 | 弊社保管の A、B2、D、E 票は年度毎に締められ、過去 5 年度分を全て保管。 | ○ |
| | ⑰ | マニフェストの法律で定められている期間内の返却の確認及び期限外の報告 | 弊社排出の廃棄物に関してマニフェストの返却期限が超過したものはなかった。 | ○ |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

| 関連法規の名称 | チェック項目 | | 調査結果 | 判定 |
|---|---|---|---|---|
| 静岡県産業廃棄物の適正な処理に関する条例 | ① | 産業廃棄物管理責任者の選定 | 代表取締役が工場長および管理責任者を兼務。 | ○ |
| | ② | 廃棄物処分委託先の実地確認（必要項目の見直し等含む） | 静岡県が発行している外部調査票の見本に従って作成、必要な変更を行って運用している。 | ○ |
| | ③ | 実地確認の有効期限 | 搬出先の実地確認の有効期限のリストを作成し、チェック。 | ○ |
| | ④ | 実地確認記録の保管状況 | 産業廃棄物委託先チェック表としてファイルして保管。 | ○ |
| | ⑤ | 事前手続きが必要な変更 | 特になし。 | ○ |
| 下水道法 | ① | 富士市下水道の排水基準の遵守 | 社内分析により測定。<br>測定値結果の問題なし。 | ○ |
| | ② | 下水道部への年次報告 | 2022 年度は提出済、試験成績書の数値に問題なし。<br>※基準値、試験の結果は下表参照 | ○ |
| | ③ | 下水道法の特定施設の届出 | 特になし。 | ○ |
| 水質汚濁防止法 | ① | 有害物質使用特定施設及び有害物質貯蔵指定施設の届出 | 特になし。 | ○ |
| | ② | 施設の変更の有無及び変更届 | 上記の分を届出済み。 | ○ |
| 土壌汚染対策法 | ① | 溶出基準の規制値 | 路盤材材料としての排出がなくなったため、該当なし。 | ○ |
| | ② | 排出先ごとの自主基準に係る規制値 | 特になし。 | ○ |
| 騒音規制法 | ① | 特定施設の届出の変更 | 特になし。 | ○ |
| 振動規制法 | ① | 特定施設の届出の変更 | 特になし。 | ○ |
| 悪臭防止法 | ① | 周囲への悪臭の漏洩 | 生物槽特有の臭気はあるが、外部に漏洩して悪臭被害が及ぶほどではなかった。2022 年度は新しい消臭剤を購入し、前年に設置した排ガス処理スクラバーも含め臭気対策を推進した。<br>※基準値 15（敷地境界線） | ○ |
| | ② | 悪臭に関する苦情の有無 | 一年間苦情なし。 | ○ |
| 消防法 | ① | 屋外貯蔵所の届出 | 特になし。 | ○ |
| | ② | 消火器の設置状況<br>（有効期限） | 設置状況は良好、有効期限も問題なし。<br>受入施設、処理施設、屋外貯蔵所に設置。<br>定期検査は外部業者に委託し実施。 | ○ |
| | ③ | 指定数量の遵守 | 指定数量以上のドラム缶廃油の受入なし。 | ○ |
| | ④ | 小型ボイラーに関わる事項<br>（設置、ばい煙、少量危険物） | 提出済の届出に変更なし。 | ○ |
| | ⑤ | 変電設備設置届出書 | 提出済み。 | |
| その他の要求事項 | ① | 自治会との協定に基づく報告事項等 | 特になし。 | ○ |
| フロン排出抑制法 | ① | 点検・保守管理・引き渡し | 簡易点検・定期点検・充填・回収・再生・破棄基準の遵守。 | ○ |
| 高周波利用設備 | ① | 高周波利用設備許可申請 | 施設の変更なし。 | ○ |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

■廃棄物の処理及び清掃に関する法律における特別管理産業廃棄物汚泥に該当する溶出の基準値及び試験の結果　※2023 年 6 月 23 日採取

| 試験の対象 | 基準値（mg/ℓ） | 試験の結果（mg/ℓ） |
|---|---|---|
| 水素イオン濃度（pH） | — | 7.7 |
| 水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物 | 0.0005 以下 | 0.0005 未満 |
| カドミウム及びその化合物 | 0.09 以下 | 0.005 未満 |
| 鉛及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.05 未満 |
| 六価クロム化合物 | 1.5 以下 | 0.05 未満 |
| ヒ素及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.02 未満 |
| シアン化合物 | 1 以下 | 0.2 |
| セレン及びその化合物 | 0.3 以下 | 0.01 未満 |
| 含水率 | 85%以下 | 53.1% |
| 全油分 | 5%未満 | 3.55% |

■下水道法における放流基準値及び試験の結果　※2023 年 3 月 10 日採取

| 試験の対象 | 基準値（mg/ℓ） | 試験の結果（mg/ℓ） | 試験の対象 | 基準値（mg/ℓ） | 試験の結果（mg/ℓ） |
|---|---|---|---|---|---|
| 水銀及びその化合物 | 0.005 以下 | 0.0005 未満 | 温度 | 規制なし（指標 45℃以下） | 17℃ |
| アルキル水銀 | 検出されないこと | — | pH | 5.7～8.7 | 8.2 |
| カドミウム及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.003 未満 | COD | 規制なし | — |
| 六価クロム化合物 | 0.5 以下 | 0.05 未満 | BOD | 600 未満 | 14.1 |
| 鉛及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 未満 | ノルマルヘキサン抽出物質 | 鉱物油 5 以下<br>植物油 30 以下 | 1 未満<br>1 未満 |
| ヒ素及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 | フェノール類 | 5 以下 | 0.1 未満 |
| セレン及びその化合物 | 0.1 以下 | 0.01 未満 | SS | 600 未満 | 95 |
| クロム及びその化合物 | 2 以下 | 0.1 未満 | ヨウ素消費量 | 220 未満 | 15 |
| シアン化合物 | 1 以下 | 0.4 | アンモニア性窒素 | 合計 380 未満 | 25.5 |
| 有機リン化合物 | 1 以下 | 0.1 未満 | 硝酸性窒素 | | 0.13 |
| 銅及びその化合物 | 3 以下 | 0.05 未満 | 亜硝酸性窒素 | | 0.05 未満 |
| 亜鉛及びその化合物 | 2 以下 | 0.06 | | | |
| 鉄及びその化合物 | 10 以下 | 0.3 | | | |
| マンガン及びその化合物 | 10 以下 | 0.1 未満 | | | |
| ホウ素及びその化合物 | 10 以下 | 3 | | | |
| フッ素及びその化合物 | 8 以下 | 0.2 未満 | | | |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

| 関連法規等の調査結果の総括と来年度以降の注意事項 |
| --- |
| ・　2022 年度は法律上許可、届出が必要な変更はなし。<br>・　2023 年度は脱水機の入れ替え及び産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の許可更新手続き等が行われるため、その際には関係官公庁と調整の上、必要な書類を提出すること。<br>・　その他変更事項があった場合は関連法規をチェックし、許可、届出が必要になった場合は遅滞なく提出すること。 |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# ９．代表者による全体の評価と見直し・指示

■全体評価と見直し

| | 評価 | 見直し・指示 |
|---|---|---|
| **二酸化炭素排出量の削減** | 昨年からの受け入れ量及び処理量の低下により、電気使用量は減少しましたが CO2 排出量の削減目標には到達できませんでした。長期目標値である 12.00kg/ｔを目指し、年間目標値を前年比-0.81kg/ｔと設定しましたが、臭気対策のスクラバー装置は定常的に稼働させているため設置前と比較して電気使用量が増加傾向にあります。<br>現在、処理槽のスクラバー装置はガス発生の可能性がある場合のみの使用としていますが、生物処理槽のスクラバー装置については 24 時間稼働させるため、今後の課題として検討の必要があります。 | 2022 年度は、臭気対策としてスクラバー装置のみでなく新しい消臭剤の導入などの別の取り組みを行ってきました。環境対策効果は顕著なため今後も継続使用予定ですが、処理槽の装置については適正使用が行われているかを再度見直す必要があります。<br>また、日常的な電気の適正使用が行われているか、今一度各所の見直しを求めていきます。 |
| **汚泥のリサイクル** | リサイクル可能処理先の新規開拓は思うように活動できませんでした。処理部門はリサイクル可能な汚泥の状態に向けるべく努力しており、水分量や臭気に注意した状態の良い汚泥を積極的にリサイクル向けとして搬出しています。特に臭気には敏感に対策を講じ、薬品量の調整や消臭剤の使用などを行いました。以前と比較して臭気のある廃液が増加し、社員一同敏感に対策検討を行ってきました。 | 処理部門は今後とも状態の良い汚泥の排出を心掛け、分析部門は処理テスト時に薬品や消臭剤の添加量について議論する機会を増やしていきたいと考えています。<br>新しいリサイクル向け処理先の情報収集は引き続き行っていきます。 |
| **紙の回収** | 仕分け分別を徹底して行い、日常的に習慣づけされました。社会の流れとしてペーパーレス化の波や、電子処理する機会が増えたことも影響し、使用後の紙のリサイクルに各々の意識が向きやすくなっています。<br>これまで社内で再利用しきれない裏面白紙の使用済み用紙は古紙回収に回していましたが、2022 年度はほとんど再利用できる範囲に収まりました。 | ペーパーレス化の増加傾向は 2024 年の電子帳簿保存法の施行も相まって、さらに進んでいくとみられます。<br>社内書類は再利用用紙を使用することを継続し、今後は電子データで代替可能な事務処理を社外との対応のみならず社内でも検討していきます。 |
| **化学物質使用量の削減** | 今期は仕入工業薬品のほとんどが値上げ基調となりました。対策として、処理部門で使用する薬品と同等の効果を期待できる廃液を積極的に開拓・受け入れし、新液の購入を押さえました。この活動の効果は非常に高かったため、今後も継続して行っていきます。<br>予定として、2023 年度から新規薬品（消臭剤）の購入と使用が検討されている廃液の受入計画があり、その薬品の使用量や環境影響が来年度の課題点となります。 | 不安定な市況がまだまだ続きそうなため、今後も継続して薬品代替利用が可能な廃液の積極的な受け入れを進めていきます。分析部門では代替品として利用な薬品の濃度・使用量・保管方法などを確認・検討し、現場での処理時に問題が発生しないよう連携した取り組みを実施します。 |



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

| | 評価 | 見直し・指示 |
|---|---|---|
| **上水使用量の削減** | 排ガススクラバー装置の稼働時に使用する水の液更新回数が以前に比べ増加し、結果として目標に及ばない要因となりました。それ以外の要因の有無も検討が必要です。環境経営目標の実績の項にもある通り、常駐車両の増加による洗車量の増加も原因の一端に当たると考えています。しかしながら企業指針として従業員と需要の増加は喜ばしい傾向であるため、今後は洗車場所の井水利用を拡大可能か検討するという新規課題が生まれました。 | 井水に切り替え可能な場所が他にないかを検討し議論する必要があります。<br>洗車については、タンク内に廃液や汚泥が残っている場合のみ処理槽付近の上水利用を可とし、それ以外は井水利用の洗車場を利用するよう呼び掛けていきます。<br>目的に合わせて地下水・上水道の利用を徹底させ、削減を目指していきます。 |
| **グリーン購入の推進** | ほぼ目標通りに活動できています。大量購入・大量消費から必要なものを長く使用する習慣はこれまでの活動の中で社員に強く根付いています。消耗品については再生製品を購入するよう心掛けてきました。<br>また現在は、可能な限りまとめての購入を意識し、配送後の段ボールはリサイクルへ、梱包材は別発送時に再利用するなど、ごみの削減にも取り組んでいます。今後も意識してグリーン購入を進めていきます。 | 事務所内で使用する日常品や事務用品といった毎日の使用品は、なるべくグリーン購入対象品かどうかを確認しやすい企業向け通販を利用していきます。<br>今後は使い捨て用品の使用削減とごみの削減にも意識を向けて活動していきます。 |
| **2022 年度の総括** | 今期は処理に必要不可欠な工業薬品が高騰し、特に廃液系の廃棄物は客先様へ価格改定をお願いする場合もありました。社会情勢はまだまだ不安定であり、取引先の事業縮小や稼働日数低下による排出量低下も少なくなく、受け入れ処理量は前年度から減少傾向にあります。ただ、幸いにも売上、利益は横ばいで推移できました。廃液の薬品代替利用で購入費用を押さえ、社員全員で経費削減意識を共有させた結果だと思います。2023 年度に向けて継続する大切な活動の一つです。<br>来期 2023 年度は電気料金の値上げが継続して行われ、電気利用量及び CO2 排出量の削減と共に向き合うべき課題となっています。「必要時に必要なだけの使用」をどこまで徹底できるかが、電気使用のみならず水道使用に関しても重要なポイントになると想定されます。<br>また、2021 年度は受け入れが減少していた低負荷廃液が今年度後半から排出され、高負荷廃液や有害物質濃度の高い廃液の処理時に利用しました。これにより上水利用削減だけでなく生物槽へ流入する処理後廃液の負荷低減や汚泥脱水の効率化に役立ち、スクラバー装置の稼働と共に生物槽の状態維持効果が見込まれました。こうした廃液同士の掛け合わせによる処理効率アップを目指すため、来年度はさらに処理部門と分析部門の連携を強化します。しかしながら同時に、利用価値の高い廃液が常に確保できる保証はないため、受け入れ予定を把握・考慮し、その都度処理手順や受け入れ場所の検討をつぶさに行うことが今後の至上命題とも言えます。<br>来年度は脱水機の更新や廃棄物処理許可更新、休憩所の大幅リフォームと大きな転機を迎えます。気持ちを新たに、全社員環境負荷低減をテーマとして引き続き部門ごと取り組みます。新しい案件の相談も継続的にあり、受け入れ可能な処理方法と使用薬品量との折り合いを付けつつ、できる限り環境負荷の低い処理方法を検討します。新しい処理方法の検討は永遠のテーマと考え継続させていきます。尚、環境経営方針、経営目標、環境経営活動計画並びに実施体制は従来通りとします。 | |

２０２３年 7月 1日

株式会社　アイクリーン

代表取締役社長　関　雅年



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。

# １０．次年度環境経営目標及び環境経営計画について

| 項目 | 目標と計画設定について | 次年度目標 | 長期目標<br>(2023 年度まで) |
|---|---|---|---|
| **二酸化炭素の排出量削減（電気使用量の削減）** | 環境対策の排ガススクラバー装置利用のため、電気使用量は設置前に比べ増加傾向にあります。今年度は達成できなかった目標値を次年度も継続して掲げることとし、不要な時間帯での処理槽の装置停止の徹底、各所の節電を心掛けるよう取り組んでいきます。<br>長期目標の達成は困難な状況に思われますが、可能な限り目標に近付けられるよう努めます。 | 排出割合<br>13.00kg/t 以下 | 排出割合<br>12.00kg/t 以下を維持 |
| **廃棄物排出量の削減（汚泥のリサイクル率アップ）** | リサイクル可能な処理先の開拓は引き続きの課題です。処理部門は継続して脱水汚泥の状態を観察し、分析部門は処理部門と連携して安定した再利用可能汚泥を排出できるよう薬品量や廃液の組み合わせについて検討を重ねるよう留意します。 | リサイクル率<br>45%以上 | リサイクル率<br>30.0%以上 |
| **廃棄物排出量の削減（コピー用紙の再利用）** | 引き続き事務所内での再利用を行い、ペーパーレス化を促進していきます。白紙の使用は主に契約書や保管用書類等のリサイクル不可な提出書類であるため、それ以外の書類の再利用、可能な限り電子データでの事務処理を進めていきます。 | 回収率<br>75.0%以上 | 回収率<br>75.0%以上を確保 |
| **化学物質の適正使用（化学物質使用の効率化）** | 前年度に引き続き、薬品代替として利用可能な廃液の検討・積極的な受け入れ、廃液同士の組み合わせで使用薬品の削減に努めます。購入薬品と異なり薬品代替物は性状変化のある場合も多いため、その都度処理テストで影響を見極めると共に、客先へのヒアリングを欠かさず取り組んでいきます。 | 処理コスト比<br>19.13kg/t 以下 | 処理コスト比<br>15.0kg/t 以下 |
| **上水の使用量削減** | 井水利用箇所の増設が目下の課題です。増設可能な場所の相談・確認を進めていきます。<br>2021 年度に井水切り換えを行ったことにより長期目標は達成されているため、2023 年度は前年使用量と比較した削減目標を設定します。 | 上水使用量<br>460 ㎥以下 | 上水使用量<br>700 ㎥以下 |
| **グリーン購入の推進** | 常にグリーン購入を意識して商品選択していきます。継続して 80%以上を維持するとともに、購入時に利用した通販の梱包材等の再利用など、ごみの削減にも引き続き取り組んでいきます。 | 購入割合<br>80%以上 | 購入割合<br>80%以上 |

来期である 2023 年度は長期目標の最終年度という区切りの時期です。現在の長期目標設定時から社内の状況及び社会情勢も変化しています。今一度環境負荷に対して自分たちにできることを社内で議論し、新しい取り組みを含めた目標設定を検討する必要があります。そのためにも、年度目標を無事達成できるよう継続して取り組んでいきます。



ふじのくに 森の町内会 間伐に寄与する紙
㈱アイクリーンは静岡県の森づくりを応援します。
この印刷物の紙の価格には、林地に捨てられてしまう間伐材を資源として活用する費用が含まれています。